

# 平成 26 年度 グループホーム『第一大山荘』事業報告書

## 1. 入居者の状況（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	65	平成 14 年 10 月	四季の郷（生活介護）
2	Bさん	男	58	平成 14 年 10 月	大山ファーム（就労継続支援 B 型）
3	Cさん	男	63	平成 21 年 10 月	大山ファーム（就労継続支援 B 型）
4	Dさん	女	48	平成 14 年 10 月	大山ファーム（就労継続支援 B 型）
5	Eさん	女	58	平成 22 年 5 月	パルステック工業株式会社就職

※H26 年度の入退去はなし。

## 2. 支援の状況

- ・グループホームでは、社会福祉法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行いました。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはありますが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、支援計画に沿った個別支援、本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切にしました。
- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員 1 名）、補職職員（1 名）が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡りました。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファーム職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行っています。
- ・課題としては、少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、小まめな情報交換・意見交換を心掛けました。また、共同生活の難しさとして、利用者間の人間関係や過度な干渉に伴うトラブル・苦情が時折発生し、対応に苦慮するケースもありました。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携を保ちました。

## 3. 余暇支援

- ・第一大山荘全体での行事は計画していないが、昴会の行事や大山ファームの行事、地域の行事等へ積極的に参加しました。地元大山町の一員としての認知度も高くなり、協力・支援も大きくなっています。
- ・「わかふじスポーツ大会」へ 4 名の入居者が参加し、フライングディスク競技、ボウリング競技に出場しました。また、1 名の入居者は、長崎で開催された「全国障害者スポーツ大会」ボウリング競技の部に 6 年連続浜松市の選手代表に選出され、今回は浜松市代表として旗手も務めました。

- ・静岡県知的障害者ふれあい交歓会へ1名の入居者が参加し、多くの皆さんの前で「今の暮らしや今後の夢について」発表しました。その後に、とても自信が付いた表情に変わっていた事が印象的でした。

#### 4. 健康支援

- ・毎日の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めました。また、高血圧や糖尿病、甲状腺疾患、精神疾患等の入居者のために、日常的な服薬管理、通院支援を継続しました。
- ・感染対策として、日常的にインフルエンザ予防に努めたり予防接種を受けていたものの（1名は拒否）、年末年始に掛けて2名の入居者がインフルエンザを発症しました。発症後の対応として、グループホーム内での感染拡大をどのように防ぐかが、今後の課題だと考えています。

#### 5. 防災の取り組み

- ・防災訓練実施状況

6月11日	・法人防災訓練（各事業所合同訓練）
11月30日	・大山町地域防災訓練へ参加
※	・各通所先の防災訓練へ参加（日中災害を想定）

- ・地域との連携強化及び夜間・風水害を想定した訓練が今後の課題だと考えています。

#### 6. 職員研修

- ・職員会議内の時間を使い、「虐待防止」「感染予防」をテーマにした研修を実施。